

千葉県旭市（国内 49 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 31 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：肉用鶏（約 7.4 万羽）
発生家きん舎の構造：ウインドウレス鶏舎（1号）
発生家きん舎の飼養形態：平飼い

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、平野部にあり、周辺は田畑に囲まれていた。
- ② 当該農場はウインドウレス鶏舎 6 棟、堆肥舎、農場主自宅、外来者用更衣室で構成されていた。
- ③ 当該農場の周辺では、本年 1 月中旬以降、本病の発生が複数例確認されており、当該農場の北西約 2 km には、国内 43 例目（千葉県 9 例目）の発生農場が存在している。
- ④ 農場東 200m には大規模な貯水池があり、調査時、2～30 羽の水きん類が確認された。

3 通報までの経緯

- ① 農場長によると、発生鶏舎（約 1 万羽、通報時 39 日齢）において 1 月 28 日及び 29 日にそれぞれ 30 羽及び 42 羽が死亡し、死亡鶏の解剖所見から換気不良を疑い、入気口の拡大等を行ったが、30 日、入り口付近で 170 羽の死亡が確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場の従業員は農場長夫妻のみであり、鶏舎の担当分けはないとのこと。

5 施設の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域に入場する車両は、衛生管理区域入口で動力噴霧器により消毒を行っていた。
- ② 農場長夫妻は、衛生管理区域の手前にある自宅で作業着及び作業用の靴に交換し、手指の消毒を行うとのこと。外来者が入場する際は、農場内の外来者用更衣室で作業着及び専用長靴に交換し、手指を消毒の上衛生管理区域内に入場していた。
- ③ 農場長夫妻が鶏舎に入場する際は、鶏舎前室で鶏舎専用の長靴に交換し、逆性石鹼の踏込み消毒槽で長靴を消毒し、鶏舎専用の作業着に着替え、手指の消毒の上入場するとのこと。鶏舎前室には、小動物が侵入可能な複数の穴が認められた。
- ④ 鶏舎平側に設置されたファン（北東に面する）により強制排気を行っていた。排気ファンと逆の平側に入気口（南西に面する）が設置され、手動で開閉しフィルターはなかった。
- ⑤ 他農場との機材の共用はないとのこと。
- ⑥ 4 日に 1 回鶏舎周辺に消石灰の散布を行っているとのこと。
- ⑦ 飼料搬入業者は 2～3 日に 1 回来場するとのこと。
- ⑧ 給与水について、塩素消毒をした地下水を使用しているとのこと。
- ⑨ 鶏糞については、オールアウト時に重機で発生鶏舎西隣にある堆肥舎に運搬するとのこと。堆肥舎は入り口はじめ開放部が多く、中でスズメが 10～20 羽確認された。
- ⑩ 死亡鶏は毎日金属製のコンテナに入れ、定期的に系列会社によってコンテナごと搬出されていた。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場主によれば、周囲でカラスの鳴き声はよく聞こえるが、農場内でカラスを見ることは少ないとのこと。また、2～4鶏舎でネズミを時々見かけるため、対策としてペストコントロール業者と契約し全鶏舎に殺鼠剤及び粘着シートを設置しているとのこと。なお、1、5、6鶏舎ではほとんどネズミを見かけないとのこと。調査時、発生鶏舎では、粘着シート上に白骨化したネズミの死体が確認された。

(以上)